

「保育課程論」の授業における指導計画作成 — 単元保育指導案をととしての学びと考察 —

丹羽ヤエ子¹、池田 舞²

(西九州大学短期大学部 幼児保育学科¹、西九州大学子ども学部子ども学科4年²)

(平成24年12月20日受理)

About the Education Effect of the Student Who Does Lesson Participation at an Attached Authorization Child Garden Event — Learning pushed in a "festival open space" —

Yaeko NIWA¹, Mai IKEDA²

1) *Department of Early Childhood Education and Care, Nishikyushu University Junior Collage*

2) *Journal of Children's Studies, Nishikyushu University*

(Accepted December 20, 2012)

Abstract

This research was carried out for two years in the lecture for the creation of the guidance plan —Learning through Unit Childcare — in “Hoiku Katei Ron” The plane of the guidance indicates that the guidance is not easy to apply to all of nurseries, the standard of the guidance is dependent on nurseries and the judgment of the value depends also on teachers in nurseries. (The same situations were also found in the attached kindergarten)

The following items were shown in the creation of the guidance plan. They are the adjustment in the first, the transcription, watching the presentation of students, envisaging the plan of the seniors, and accepting the correction of the plan. The ability of the creation of the guidance plan increases by repeating these items.

The most of the students declared that the guidance for creating the guidance plan in “Hoiku Kateiron” was useful.

Giving the some lectures for this kind of the creation of the guidance plan is important.

Key words : Writing Concretely 具体的に書く
Expression of Text 文章表現
Language Credit 言葉かけ
Eye Level for Children 子どもの目線
Plan for Childcare Guidance 保育指導案

1. はじめに

保育士養成課程の見直しは、これまで保育所保育指針の改定を受けて、その翌年に行われてきたが、保育所保育指針の告示化に伴い、養成課程の大幅な内容の見直しが行なわれた。平成23年4月より新設科目の導入がなされ、今年2年目を迎えている。本学での「保育課程論」は、1年次の前期開講で筆者が担当している。「保育課程論」は講義2単位で、保育所保育指針において保育課程の編成が義務づけられたことや、教育課程・保育課程を中心として、計画・実践・省察・評価・改善というサイクルを進めていくことが教育・保育にとって重要であることを踏まえ新設された教科目である。本研究の目的は、保育士養成における「保育課程論」の授業のあり方を検討する。

2. 手 続 き

2-1 「保育課程総論」の授業の進め方

「保育課程論」の科目内容は、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」を基に、「教育課程」・「保育課程」の意義や保育計画の変遷、各課程の編成や指導計画作成などについて学習する。筆者はこの授業において、保育計画の中の短期指導計画の日案（単元保育）に着目し、保育計画の理解と単元保育指導案作成の指導に主眼を置いた。木戸¹⁾は「実習生が実習中に経験するつまずきの原因の一つに指導案作成がある」と述べている。また、塚本・徳永・大熊・村田²⁾は実習不安の内容についてのカテゴリーの第2位に「指導案」を挙げている。この観点より、授業15回の後半に指導案作成についての指導時間（補講数回）をとり指導をおこなっている。特に11月の教育実習Ⅰ（附属幼稚園）で初めての単元保育を経験するからでもある。教育・保育計画を見据えて、平成23年度と今年度の単元保育指導案作成の学生の授業の学びと理解度について、教授法等も踏まえて検討する。

3. 方 法

「保育課程論」の授業では、平成23年度・平成24年度共に光生館の「教育課程・保育課程論」の教科書を使用している。教科書に沿って保育計画の重要な点を絞って教授し、より教科書の保育計画の理解を深めるために「認定子ども園」附属三光幼稚園と附属三光保育園の教育及び保育の全体計画について学んだ。これは、高野³⁾らは「目の前の子どもの存在」という、計画の対象となるべき存在のいないところで学習を促さなければならない点」と述べ、また、齊藤⁴⁾は、「計画の

必要性についての理解を深めるためには、指導計画を週案から作成することに意味がある」と論じている。しかし、授業時間の制約や活用頻度を考えると「日案」の中の「単元保育指導案」が、学生にはより身近に感じられること、月案・週案・日案・単元保育の計画を掘り下げて考える身近な教材として附属園の計画を取り入れた。

附属園保育・教育課程の内容は、「各年齢（0歳から5歳）の年間目標」と、附属幼稚園の3歳から5歳までの各教育課程・年間指導内容、附属保育園の0歳から5歳までの各保育課程・年間指導計画と年間指導内容についてのプリントを配布し現場の具体的な保育計画について学んだ。残りの時間を単元保育指導案作成にあてた。保育指導案の様式は資料1である。

平成23年度は教科書の保育計画についてはポイントを絞って教授し（附属園の保育・教育課程含む）、付属三光幼稚園の6月配属クラスの実習クラスごとに単元保育の内容が重複しないようにグループワークを実施した（6月に実習したクラスで11月も実習する）。保育内容は11月の実習で利用できる単元保育指導案作成を実施した。作成後、学生全員（1名づつ）書画カメラ（実物投影機）でスクリーンに映して発表した。また、同時に筆者の指導を受ける。原本と指導後の指導案を提出させた。

平成24年度は、教科書を済ませたのち（附属園の保育・教育課程含む）、指導案作成についてのテキスト「保育指導案大百科事典」開⁵⁾のプリントを配布し、主活動、ねらい、導入、展開、まとめについて指導した。この年度の設定は学生の好きな季節・年齢で設定させた。昨年同様、書画カメラ（実物投影機）でスクリーンに映し出し全員（1名づつ）で発表した。筆者より細かい指導を受け、訂正したものを提出させた。

発表時の筆者の学生へのアドバイスは、「主活動」と「ねらい」との関連性や、「幼児の活動」の「導入」から「展開」への進め方での教材選び、「保育士の配慮と援助」の言葉表現・声掛けの方法、環境構成の記入の仕方、「まとめ」のまとめ方など、多岐に及んだ。

4. 調査方法

4-1 調査対象者・内容・時期

本学幼児保育学科生の平成23年度・平成24年度、1年次前期開講の「保育課程論」履修者を対象とした。平成23年度1年次生90名（4名欠席で86名回答）、平成24年度1年次生108名（10名欠席で98名回答）11月附属園（単元保育経験）実習後、アンケート紙「保育課程論での指導案作成についてのアンケート」で調査。平成24年度1年次生108名（11名欠席で97名回答）に限り、

6月の附属幼稚園観察実習終了し授業終了直後に、「指導案作成上の留意点に関する理解度調査」として中間的アンケート紙調査を実施した。アンケート様式は資料2・資料3である。

4.2 調査結果

平成23年度アンケート質問紙調査（現2年生）

問1「保育課程論」の授業で、指導案作成と発表をしました。その時「主活動」は何でしたか？では、6項目に分類した。「体を動かす遊び」は23名（27%）、フルーツバスケット6名・じゃんけん列車4名・キャタピラゲーム・ダンボール電車・リレーゲーム・風船リレー・ポン手上げゲーム・じゃんけんゲーム・鳴き声遊び・紙相撲・缶で挟んでボール運びゲーム・落ち葉当てゲーム・木の実リレー・落ち葉の魚釣り・新聞紙で風船運びゲームなどであった。「ダンス活動」は5名（6%）で、アブラハムの子・ハメハメハダンス・僕のミックスジュース・おもちゃのチャチャチャ・リズムダンスであった。「楽器づくり」は7名（8%）で、マラカス作り6名・でんでん太鼓等であった。「製作活動」は48名（56%）で、クリスマスツリー2名・クリスマスツリーの飾り2名・クリスマスリース・サンタクロースづくり・ポヨヨンロケットづくり・牛乳パックこまづくり・色水作り・落ち葉のみの虫づくり2名・みの虫の色紙飾りつけ2名・どんぐりづくり・どんぐりの木づくり・紅葉の木づくり3名・柿の木づくり・紙皿動物・動物に色塗り飾りつけ・写真立て4名・ふわふわバルーンづくり・バルーンの小物入れ・メッセージカード2名・洋服作り2名・お面づくり・紙皿ペンダントづくり・カレンダーづくり・紙とシールでサツマイモづくり・自分だけの紅葉づくり・スライムづくり・もこもこお化け・けん玉づくり・動物時計・絵本づくり・糸電話づくり・サンタクロースにお手紙を書く・書道をする・色鉛筆でお絵かき・折り紙と色塗り・スクラッチ遊び2名などである。「ごっこ遊び」は1名（1%）で、お店屋さんごっこであった。「鑑賞」は、パネルシアター・ペープサートなどで2名（2%）であった。

問2指導内容は5領域に分類すると、何に該当しますか？（複数回答可）。環境6%、人間関係13%、表現（リズム表現又は製作関係）62%、言葉8%、健康11%であった。

問3①指導案作成において、特に時間を要したものを○で囲んでください。「環境構成」2%、「幼児の活動」22%、「保育者の援助と配慮」は76%と多かった。②その理由を記入くださいでは、「環境構成」は材料や時間配分について、「幼児の活動」では、年齢に応じた活動4名、活動の速いこと遅い子の差3名、活動の手順について2名、子どもが楽しめる活動を考える2名・実際の活動場面を想像するのが難しかった・服装などについて

も考えた・危険なことが起こらないように考えた・子どもの満足できるものをつくらせたかったので・活動内容が難しかったからなど。「保育者の援助と配慮」では、子どもの様子を想像するのがむずかしかった14名・子どもがどうすれば楽しく活動できるか考えるのが難しかった9名・子どもへの伝え方8名・子どもの活動を予想したうえで配慮を考えなくてはならなかった6名・声掛けや援助の仕方のイメージをするのが難しかった5名・細かく援助を書き込む必要があったから4名・年齢や個人差への配慮が必要だったから4名・安全への配慮を考えたから4名・具体的に書く必要があったから3名・援助内容や援助場面が多くなったから3名・子どもの予想外の行動を視野に入れて指導案を作成する必要があったから3名・特に重要な事項であると考えたから2名・何度も書き直したから2名・配慮する場面がよくわからなかったから2名・それ以外の事項を踏まえたうえで考える必要があったから・難しかったから・どこまで詳しく書くのかわからなかったから・保育者の言葉かけによって子どもの反応が変わるから・声使いや内容に合っている援助であるか考えたから・子どもたちに身につけてほしいこと、指導したいことが多くあったので・声掛けの内容を熟慮したから・時間配分などを考えたからなどであった。

問4①指導案作成において、下記項目の中で難しかった項目を○で囲んでくださいでは、「導入」37%、「展開」28%、「まとめ」35%であった。②その理由を記入くださいの「導入」では、展開へのつなげ方が難しかった13名・子どもの興味をどうすれば引き出せるのかを考えるのが難しかった12名・子どもの興味を引き出す最も重要なところであると考えたから3名・絵本など活動に合った導入の教材を探すのが大変だったから3名・導入の仕方がわからなかった・活動のイメージが難しかった・導入という活動はどこまでが導入なのかわからなかった等であった。「展開」では、子どもが興味を持つ活動4名・活動内容の伝え方が難しい4名・年齢、個人差に合わせた活動を考えること3名・時間を有効活用したいと考えたから3名・子どもの動きを考えた2名・導入からまとめまでの流れを作る部分だから2名・内容が多い部分だから2名・活動の進め方が難しい2名・活動と活動の接続の仕方が難しかった・ほかの人に伝わる表現がむずかしかった・援助を考えるのがむずかしかったなどであった。「まとめ」は、どのようなまとめ方が良いのかわからなかった13名・子どもに伝わるまとめ方を考えるのが難しい11名・活動進度の違う子どものまとめ方がわからなかった2名・子どもたちを話が聞ける状況にするのが難しい・早く終わった子への対応が難しいから・展開までで気力を使い切ってしまったから・ねらいの達成のためのやり方がわからなかったから等で

あった。

問5①この指導案を附属園の11月実習単元保育で使用しましたか？では、「はい」は33%、「いいえ」は67%、②「はい」と回答された方、現場の先生に訂正を受けましたか？では、28名中、全員訂正を受けていた。③「はい」と回答された方、どのような訂正をうけましたか？の訂正の内容は、活動内容の変更、追加12名・援助や配慮事項の追加7名・後の活動を見越しての子どもたちへの声掛けや配慮について6名・活動の内容や流れの説明方法の具体化6名・言葉遣いの変更3名・ねらいの変更2名・年齢に合わせた内容変更2名・援助や配慮の意図の明確化・活動後についての配慮・絵本の種類・達成感のある内容への変更などであった。④11月の附属幼稚園実習単元保育で指導案を使用しなかった方、理由をお聞かせくださいについては、クラス内で活動の種類が似通っていた16名・子どもの発達段階に合っていないと感じた10名・季節と合っていなかった9名・別の教材にチャレンジしたかった9名・季節感がなかった3名・後に残るものをしていたいと考えていた2名・服などが汚れてしまう活動であったから2名・教材が集まらなかった2名・活動形態を変えたから・教育実習指導において使用を禁止されたから・よく行う活動だったので子どもが飽きている可能性があったから・以前、他の学生が行っていたから・自分の教育レベルと合っていなかったから・教材研究が足りないと言われたが何が足りないのかわからなかったから・園行事とかぶっていると言われたから・参加していないなどがあった。

問6①前期に「保育課程論」の授業で指導案作成を学びましたが、役にたちましたかでは、「はい」92%、「どちらとも言えない」8%、「いいえ」0%であった。②「はい」の方、その理由をお聞かせくださいについて、指導案の書き方、書く内容を学ぶことができたから47名・練習になり参考にできるので以前よりスムーズに書けるようになった28名・導入の大切さがわかったから3名・改善するポイントがわかるようになったから3名・先輩の指導案を見ることができたから3名・他の人の良いところを参考にすることができるようになったから2名・実習のイメージ作りに役立ったから2名・保育者の配慮や援助の具体的内容がわかったから2名・現場で役立つことが学べたから2名・実習時に活用することができた・準備の大切さがわかった・日誌が書きやすくなった・導入、展開、まとめが書き易くなった・新しいアイデアを作るきっかけになったから・良い指導案を作ることができた・細かい部分まで指導してもらえたから・説明することの難しさを学ぶことができたから・説明することの難しさを学ぶことができたなどであった。③「いいえ」の方、今後どのようにすればよいと思われますか？お聞かせくださいでは、「いいえ」の回答0のため記入者な

しであった。

平成24年度アンケート調査（中間アンケート）

現1年生

問1 指導案の「主活動」(テーマ)は何でしたか？では、遊びの種類ごとに分類した。「体を動かす活動」は16名(17%)で、しっぽ取りゲーム3名・じゃんけんゲーム2名・警泥ゲーム2名・フルーツバスケット2名・プール遊び2名・迷路鬼・氷鬼・カブ抜きゲーム・ドッジボール・釣りをするなどであった。「ダンス活動」は3名(3%)で、アブラハムの子・どうぶつ村の子・リズム遊び、「製作活動」は73名(75%)で、七夕飾り作り13名・団子作り4名・クリスマスリース作り3名・鬼の面づくり3名・アジサイのちぎり絵3名・てるてる坊主3名・野菜のスタンプづくり3名・スクラッチで絵を描く2名・吹き絵で花火2名・アジサイの製作2名・紙皿コマづくり2名・海の生き物づくり2名・家族へ絵のプレゼント・お母さんありがとうのカードづくり・家族への手紙づくり・水族館の絵・クリスマスツリーづくり・松ぼっくりのツリーづくり・織姫と彦星の貼り絵づくり・カレンダーづくり・ひまわりの絵のカレンダー・ビックリ箱・紙コプター・電車・お星さま・空飛ぶ金魚・けん玉・風鈴・ピョニンピョニンかえる・壁面のお化けづくり・福笑い遊び・落ち葉でライオン・カラフルな葉のみの虫・落ち葉でトトロ・イチヨウの葉で製作・おちば製作・カニの壁面作り・カエルのお面・動物のお面・花火のちぎり絵・いろいろなピカチュウ・お月見とウサギの製作・サルの壁面作りなどであった。

「その他」虫探し、泥団子遊び・シャボン玉遊びなど3名(3%)、無記入2名(2%)であった。

問2①「主活動」を決めた理由を下記より選んでくださいでは、自分の得意分野24名(25%)、保育雑誌を参考24名(25%)、先輩に教えてもらった3名(3%)、先輩の指導案を参考にした17名(17%)、その他28名(29%)、無記入1名(1%)であった。②その他に○をつけた方は記述下さいでは、季節を考慮して9名・実際に自分が小さい時に経験したので7名・オープンキャンパスでおこなった2名・インターネット2名・教科書2名・楽しそうであったから・友達に決めてもらった・高校時の話より・子どもの通う保育園で製作していた・作りたいと思ったので・自分で考えた等であった。

問3 発表時に、文章表現で訂正を受けた項目個所を○で囲みなさい(複数回答可)では、全体で186箇所、「子どもの活動」67箇所36%、「保育者の援助」53箇所28%、「環境の構成」38箇所20%、「主活動」11箇所6%、「ねらい」8箇所4%、「時間配分」5箇所3%、「字の訂正」1箇所1%、「無記入」3名2%であった。

問4それはどの部分でしたか？項目を○で囲みなさい。また、それは何箇所でしたか？の「導入」では、72箇所あり、環境の構成20箇所（28%）、子どもの活動25箇所（35%）、保育者の援助20箇所（28%）、ねらい7箇所（9%）であった。「展開」では、子どもの活動53箇所（46%）、保育者の援助35箇所（30%）、環境の構成26箇所（23%）、主活動1箇所（1%）、ねらい0%、時間配分0%であった。「まとめ」では、保育者の援助16箇所（43%）、子どもの活動15箇所（41%）、環境構成5箇所（13%）、時間配分1箇所（3%）、ねらい0%、主活動0%であった。

問5指導を受けた文章表現を具体的に書いてくださいでは、86項目挙がった。項目を「具体的に」、「内容について」、「文章表現」、「少略してよいもの」の4つのカテゴリーに分類した。『具体的に書く』の指導があった項目は、興味を持たせる・ねらい・お約束をする4名、保育者の援助2名、説明をする2名、声掛け・援助をする3名、活動をする4名、準備物について15名、ゴミの処理、環境構成2名、手の汚れへの対応、歌について（歌の曲名など）、話を聞く（誰がだれの話を書くのか）3名、手遊び、絵本（本・手遊びの名前・注意点）について12名、製作過程（作る順序を書く）、壁に貼る（画鋏で壁に貼る・セロテープでなど）、製作をする（作り方を書く）、製作物について（説明不足）5名、材料について（何人分、いくつ準備するのか）4名、などであった。『文章表現』で指導のあった項目は、しっかりと・ちゃんと4名、みんなで一緒にすすめる（製作をする）、しっかり歌っているか（楽しく・元気に）、道具を取りに行く（準備をするに含まない）、歌わせる（ピアノに合わせて歌う・楽しく歌う）、取り出す（持ってくる）、のりがついた手を拭く濡れタオル（手を拭くタオル）、障害物（三角コーナー）、保育者に確認する（保育者に聞く）、のりなど（道具箱）、お手本を見せる（見せる前に子どもに考えさせる）、リボン結びをしてあげる（できる子にはさせる）、踊って気分を高める（踊って楽しい雰囲気作りをする）、仕上がらなかった子どもは先生へ（全員終わらせることを前提で行うので書かない）、作る（作って遊ぶ）2名、飾りつけについて（わかりやすく絵で描く）4名、作品の取り扱い（みんなに見せる活動を付け加える）、みんなで楽しく遊ぶ（ルールを守る大切さを学ぶことも付け加える）、歌詞を記載（歌詞は記載しない）、願い事を書く（主語の「短冊に」を入れる）、貼り絵を制作する（貼り絵をする）、絵をかく（似顔絵をかく）、文章の長さ（長くせず、箇条書きで短く書く）3名、何かな？（何ですか？）、どうだった？（どうでしたか？）、楽しかった？（楽しかったですか？）、七夕飾りを作ろう（七夕飾りを作る）などであった。『省略してよいもの』の項目は、活動に入っていく、事前に水筒・タオルを準備するよう伝える、活

動をやめて先生の話を書く（先生の話を書く）、排泄を促す、子どもの感情について書くなどで、『内容について』の指導は、排泄について（排泄は活動の最初に移動させる）2名、活動内容の順番（導入から展開へ移動）、主活動（長すぎるので短くまとめる）2名、子どもの活動（もっと簡潔に）、まとめ（もっと短く箇条書きにする）、活動内容の難易度（難易度が高かったため変更）、片付けが終わってなくても途中で座らせる（片付けを済ませてからでないとスムーズにいかない）、線を足で引く（じょうろ（水）・石灰・棒等で線を引く）、作る（遊んで作る）、手遊びの種類（変更する）2名、準備物（環境構成にも書いて、導入にも書く（絵本や紙芝居など）2名、子どものこと（保育者の援助には書かない。子どもの活動欄に書く）、約束、説明「子どもの活動」と「保育者の援助」欄に書く）、作り方の説明「子どもの活動」に書く）3名、・作り方の説明（お約束や歌、手遊びを付け加える）6名、・踊る（歌の練習をするのを加える）、お約束の内容「危ない虫に近づかない」を加える、まとめについて（まとめを書く）、絵本を読む（配慮事項を付け加える）、注意事項（お約束を加える）2名、・説明をする（保育者の援助を加える）、先生の話を書く（歌や紙芝居を加える）、ホッチキスで止める（セロハンテープを上から貼るを加える）、シャワーをあびる（シャワーをかかると準備体操を加える）、配る（もらっていない子がいないか確認するな）、ルールと約束（ルールと約束の違い）などであった。

問6指導案を作成するにあたり、どのような指導が勉強になったと思いますか？（自由記述）では、30項目挙がり、言葉の使い方について13名、「環境構成」・「子どもの活動」・「指導者の援助」などの書き方12名、具体的に書くことの大切さ11名、文章表現について6名、時間配分について4名、年齢や季節に合ったものを考える大変さ・大切さ4名、「保育者の援助」について3名、どのように書いたら相手に伝わるか3名、指導案の書き方3名、「環境構成」の書き方3名、約束事は指導案に書き込む3名、「ねらい」の書き方2名、1つ1つの文章を簡潔に書くこと2名、話し言葉は使わないこと2名、子どものことを考えて作る楽しさ・大切さ2名、「主活動」や「ねらい」の考え方2名、全て2名、「導入」の意味について、指導案を書く上での工夫点について（文字の横系列を揃える等）、「子どもの活動」は子どもを主体に書くこと、何をどこに書くのかについて、先輩の指導案を見ること、他の人の指導案作成の発表を聞くこと、活動や援助のタイミングについて、自分たち（実習生）が面白いと感じられるものを単元とする大切さ、子どもに分かりやすいようにする大切さ、絵本等で興味を持たせることの大切さ、声掛けの仕方、「子どもの活動」を理解できたこと、様々な点で工夫すること等であった。

問7指導案作りで「工夫した点」について記述してください（自由記述）では、25項目挙げられ、誰が見ても分かり易いように書くこと16名、図の使用11名、具体的に詳しく書く8名、子どもが楽しめる指導内容8名、年齢に合わせた指導案作成6名、援助の仕方5名、制作物の書き方（図示）4名、教材の工夫3名、文字系列を合わせること2名、「導入」の仕方2名、「まとめ」の仕方2名、短くまとめる2名、活動内容（わかりやすいもの、後に残るもの）2名、約束の明示2名、声掛けの仕方、内容の記載2名、「展開」の仕方、時間配分、季節に合った指導案作成、活動内容のはっきりした指導案作成、クラスに合わせた内容と応用、子どもが体験したことのない内容とすること、子ども同士が関わりあえるものとする、器具の使用法、大人でも楽しくなる指導案作り、文字のサイズを大きくするなどであった。

問8指導案作りで「苦労した点」について記述してくださいでは、24項目挙げられた。保育者の指導・援助・配慮について25名、言葉遣い・表現方法9名、年齢に合った活動を考えること6名、テーマ、主活動設定6名、みんなに伝わる指導案作り5名、文章を短くまとめる3名、「導入」の仕方3名、「環境構成」3名、どこに何を書くのか分らなかった点3名、文章構成を考えること2名、時間配分2名、様々な状況を想定しての指導案作成2名、絵をかくの説明2名、教材の量や内容2名、全て2名、字数が多かったこと、説明を文章で表現すること、具体的に詳しく書くこと、小さなことにも気を配る必要があったこと、子どもの立場で考えること、絵本探し、ルールの内容、文字系列を合わせること、全部書き直した点等であった。

問9今後の実習（附属三光幼稚園・学外保育園・学外幼稚園）で役に立つと考えられますか？該当するものを○で囲みなさいでは、「はい」94%、「どちらともいえない」6%、「いいえ」0%であった。

平成24年度アンケート調査（現1年生）

問1「保育課程論」の授業で、指導案作成と発表をしました。その時の「主活動」は何でしたか？の質問では、5項目に分類した。「体を動かす遊び」は20名（20%）で、フルーツバスケット4名、しっぽとりゲーム3名、プール遊び2名、警泥あそび、氷鬼あそび、迷路鬼遊び、大縄とび、リズムあそび、シャボン玉あそび、かぶ抜きゲーム、モンチッチじゃんけん、じゃんけんゲーム、泥あそび、虫探し等であった。「ダンス活動」2名（2%）では、アブラハムの子、動物村の子であった。「製作活動」は73名（75%）で、七夕飾り製作14名、うちわ製作4名、アジサイ製作3名、銀杏の葉で製作3名、野菜スタンプ政策3名、てるてる坊主製作3名、鬼の面製作3名、クリスマスツリー製作3名、自分だけの花火製作2名、引っ

かき絵製作2名、海製作2名、クリスマスツリー製作2名、紙皿こま製作名、いろぬり、福笑いづくり、ちぎり絵、ちぎり絵でおり姫と彦星、ちぎり絵花火、落ち葉でライオンづくり、落ち葉でトトロ、いろいろなピカチュウ、牛乳パックで電車づくり、洗濯バサミモンキー製作、巨大水族館製作、ビックリ箱づくり、お化け屋敷のお化けづくり、カエルのお面づくり、七夕の短冊に願い事下記、お月見製作、紙皿カニづくり、けん玉づくり、紙コプター製作、ひまわりカレンダーづくり、12月のカレンダーづくり、風鈴づくり、お父さん・お母さんへの絵製作、お父さん・お母さんへの手紙づくり等であった。「その他」は2名（2%）で、つり遊び、ありがとうの気持ちを伝えようであった。「無回答」1名（1%）であった。

問2指導内容は5領域に分類すると何に該当しますか？（複数回答）では、環境25%、人間関係13%、表現47%、言葉7%、健康7%、無回答1%であった。

問3①指導案作成において、下記項目の中で特に時間を要したものを○で囲んでください。②その理由を記入くださいでは、「環境構成」3%で、その理由として、どのような状態が子どもにとって良いか考えたから、安全面への配慮を考えたから、ねらいに基づいた環境を考えたからであった。「幼児の活動」は10%で理由は、子どもの可能な活動が分からないから、子ども中心の活動を考えたから、子どもが楽しめる活動を考えたから、どのような活動の順番がよいか考えたため、細かい活動内容を考えるのが難しいから、予想される活動を考えつかなかったから、無記入3名であった。「保育者の援助と配慮」は84%で理由は、どのような配慮、援助が必要か分からない29名、子どもの様子がイメージできない6名、書く内容が分からない6名、どこまで援助していいか分からない5名、書く内容が多かったから5名、子どもへの声掛けの言葉を考えたから3名、子どもへの伝え方がわからない3名、子どもへの配慮や援助が大切だと思うから3名、子どもが楽しめるようにする方法を考えたから2名、不測の事態も想定して書いたから2名、子どもの様子をイメージし、配慮、援助を考えたから2名、表現の仕方が難しかったから2名、準備が多かったから2名、一番考えたから2名、子ども目線で考えるのが難しいから、言葉遣いが難しいから、無記入9名であった。

問4①指導案作成において、下記項目の中で難しかったものを○で囲んでください。②その理由を記入くださいでは、「導入」は45%でその理由は、どうすれば子どもの心をつかみ、引き付けるかを考えたから19名、展開との接続が難しいから15名、単元の内容と合致するものにしないといけないから4名、導入の仕方がわからなかったから3名、話の内容が難しいから、静かにさせる声掛けが思いつかなかったから、無記入3名であっ

た。「展開」は27%で理由は、流れを考えるのが難しかったから3名、詳しく書く必要があったから2名、活動の主要部分だから2名、子どもに分かる展開としなければならなかったから2名、活動が楽しいものとなるよう工夫しようとしたから2名、子どもへの伝え方を悩んだから2名、子どもの状況に合わせて考えなくてはいけないから、内容を何にするのか迷ったから、限られた時間の中での活動を考えたから、書く量が多いから、無記入7名であった。「まとめ」は22%で理由として、まとめ方がわからない13名、ねらいとの接続が難しいから4名、声掛けが難しいから、個人差への対応に困ったから、感想を充実させたかったから、書く量が多いから、無記入1名であった。全体の「無記入」は6%であった。

問5①この指導案を、附属幼稚園の11月実習単元保育で使用しましたか？では、「はい」4%、「いいえ」96%、②「はい」と回答された方、現場の先生に訂正を受けましたか？では、「はい」75%、「いいえ」25%であった。③「はい」と回答された方、どのような訂正を受けましたか？では、ゲームの内容を年齢に合わせて変更、導入を行う場所の変更、時間配分の変更、援助の意義の確認、無記入1名であった。

④11月の三光幼稚園実習単元保育で指導案を使用しなかった方、理由をお聞かせくださいでは、季節が合わなかったから42名、対象年齢が異なっていたから9名、別の作品制作活動をしたくなったから9名、季節感を出したかったから5名、他の実習生と製作でかぶってしまうから4名、子どもの現在の様子と合わなかったから3名、材料が集まらなかったから3名、活動内容が気温や季節に合わなかったから2名、活動時間に不都合があると感じたから2名、活動場所の確保ができなかったから2名、活動内容を幼児が理解できなかったから、別の時間に行われていたから、指導案を失くしたから、急いで書いたので頭に入っていなかったから、無記入5名であった。

問6①前期に「保育課程論」の授業で指導案作成を学びましたが、役に立ちましたか？②、「はい」の方、その理由を聞かせくださいでは、「はい」83%、「どちらとも言えない」16%、「いいえ」0%であった。「はい」の理由は、指導案の導入・展開・まとめの書き方や表現のしかたがわかった46名、指導案作成方法の手順がわかった11名、スムーズに書くことができた10名、学んだことを単元保育に活かせた6名、環境構成や配慮点などの書き方のアドバイスがあったから5名、詳細なプリント資料を参考にして書くことができた3名、援助などを考えられるようになった2名、教員からの丁寧な説明を受けられたから2名、発表をして、手遊びや活動内容が参考になった、言葉遣いについて学べたから、子どもに対する配慮について学べたから、訂正部分を見つける事が

できた、無記入3名であった。③、「いいえ」の方、今後どのようにすればよいと思われますか？の質問では、回答0であったため記入者はいない。

4.3 調査結果の図解

4-3-1 平成23年度と平成24年度の同一質問紙によるアンケート調査結果

問1 「保育課程論」の授業で、指導案作成と発表をしましたが、その時の「主な活動」は何でしたか？

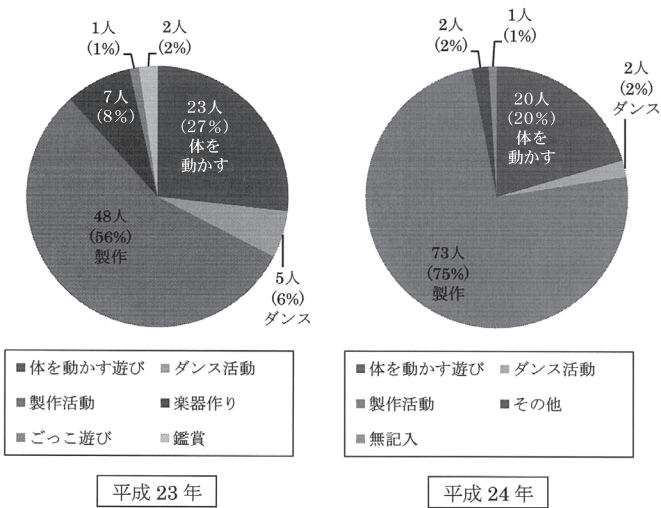


図1 『問1 〔主な活動〕』

問2 指導案内容は5領域に分類すると、何に該当しますか？（複数回答可）

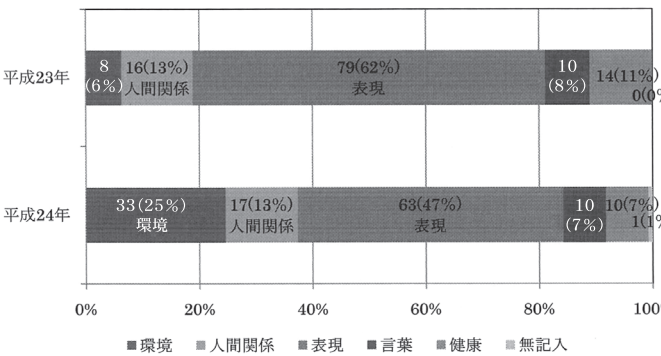


図2 『問2 〔5領域〕』

問3-① 指導案作成において、下記項目の中で特に時間を要したものを○で囲んでください。

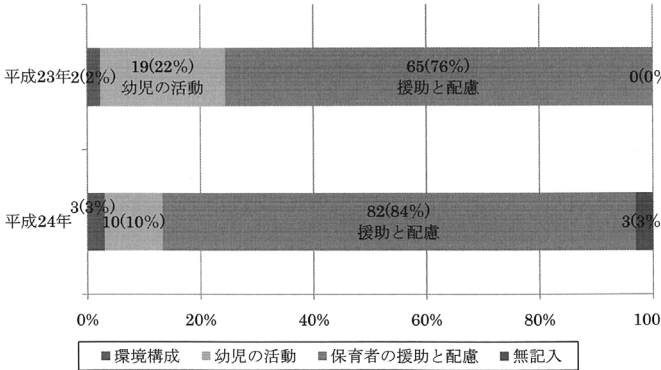


図3 『問3 〔特に時間を要したもの〕』

問4-① 指導案作成において、下記項目の中で難しかったものを○で囲んでください。

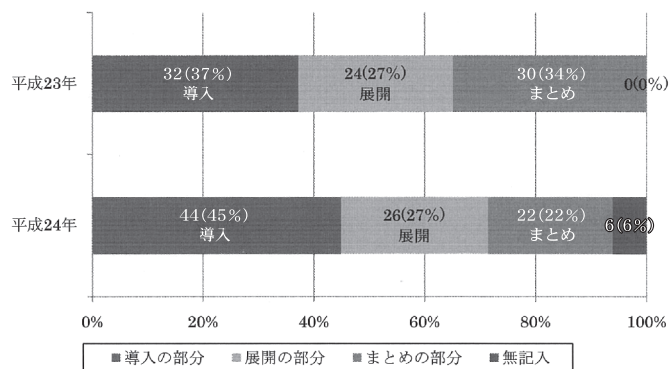


図4 『問4 〔特に難しかったもの〕』

問5-① この指導案を、三光幼稚園の11月実習単元保育で使用しましたか？

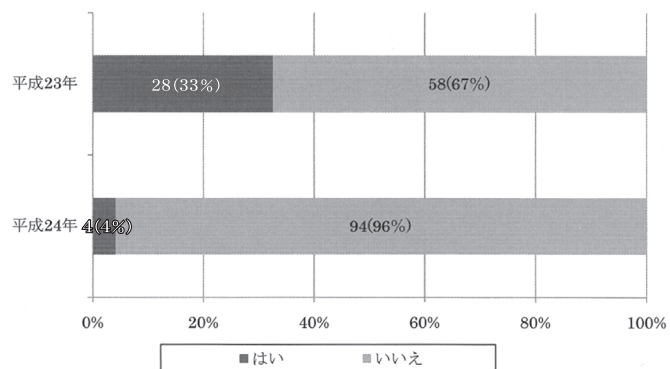


図5 『問5-① 〔11月実習で使用したか〕』

問5-② 「はい」と解答の方、現場の先生に訂正を受けましたか？

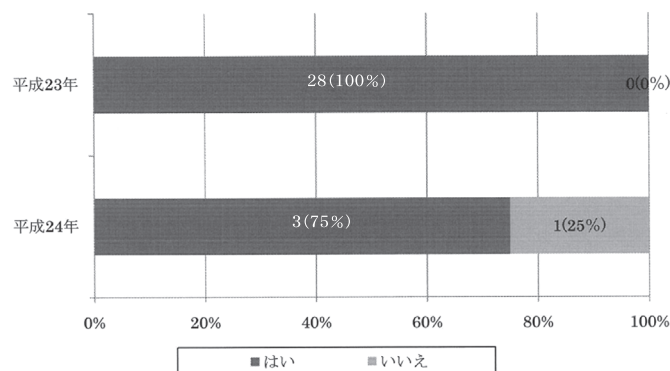


図6 『問5-② 〔訂正を受けたか〕』

問6-① 前期に「保育課程論」の授業で指導案作成を学びましたが、役に立ちましたか？

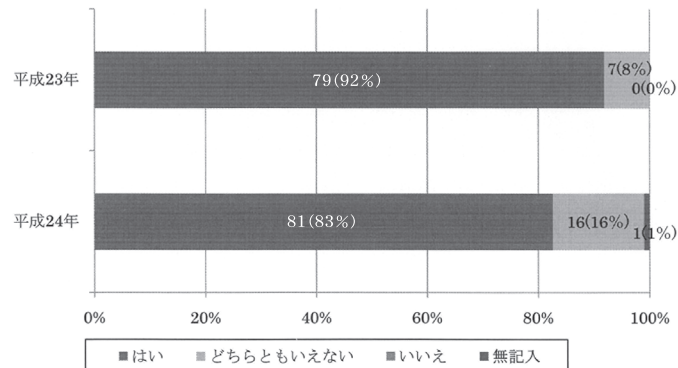


図7 『問6 〔授業は役に立ったか〕』

4-3-2 平成24年度中間アンケート紙調査結果

問1 指導案の「主活動」(テーマ)は何でしたか？

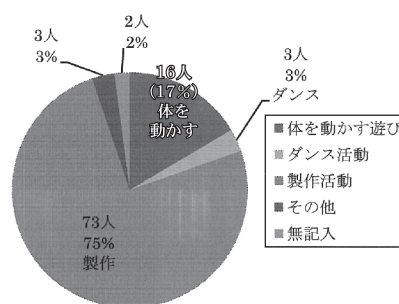


図8 『問1 〔主な活動〕』

問2-① 「主活動」を上記に決めた理由を下記より選んでください。

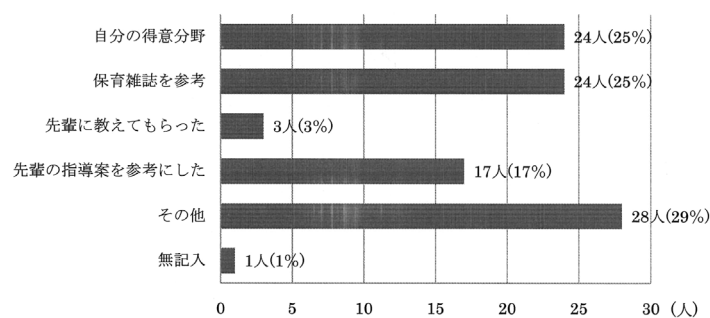


図9 『問2-① 〔主活動を決めた理由〕』

問3 発表時に、文章表現で訂正を受けた項目箇所を○で囲みなさい。(複数回答可)

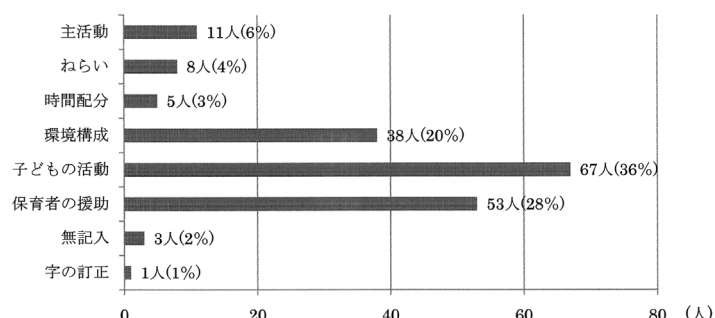


図10 『問3 〔訂正項目〕』

問4 それはどの部分でしたか？項目を○で囲みなさい。また、それは何箇所でしたか？

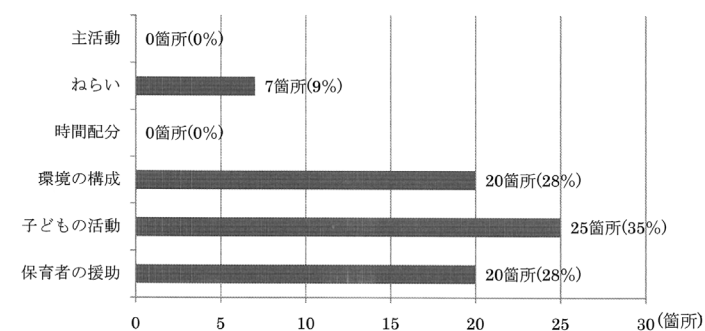


図11 『問4 〔導入での訂正箇所〕』

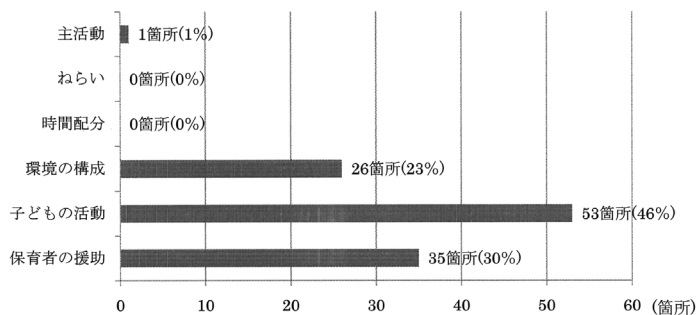


図 12 『問 4 〔展開での訂正箇所〕』

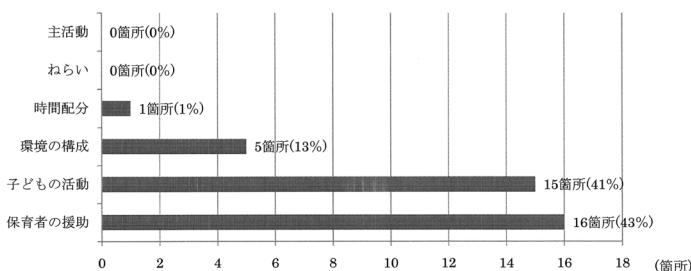


図 13 『問 4 〔まとめでの訂正箇所〕』

問 9 今後の実習（付属三光幼稚園・学外保育所・学外幼稚園）で役に立つと考えられますか？ 該当するものを○で囲みなさい。

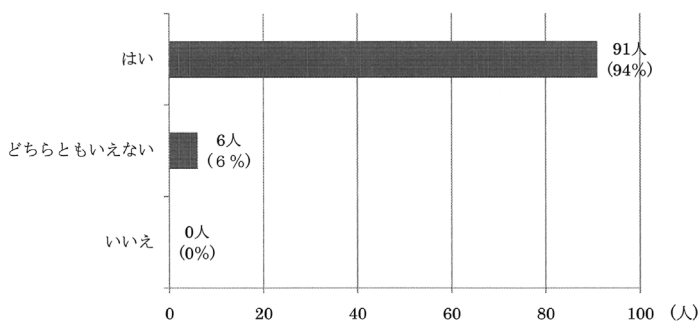


図 14 『問 9 〔今後の実習で役立つと思うか〕』

5. 考 察

指導案の主活動は平成 23 年度・平成 24 年度共に「製作活動」を行っている学生が一番多く、55%・75%で、次に「体を動かす遊び」がゲーム遊び等で、26%・17%と多く、山田⁶⁾も「製作活動を行っている学生が一番多く、次にゲーム遊び、感覚遊びと続いた（どちらも体を動かす遊びと言える）」とし、結果は同じであった。

それゆえ、主に製作活動について丁寧に指導する必要があると考察している。

また平成 23・24 年度の時間を要した項目では「保育者の援助と配慮」で、大滝⁷⁾は、「まず学生は、保育の流れを予測し、子どもの姿や行動をも予測しなければならない」とし、今回の調査でも両年共に「子どもの様子を想像するのが難しい」、「子どもの様子がイメージできない」が上がり、子どもへの言葉かけが難かしく石川⁸⁾、

実習前の学生にとっては、「子どもの姿」を想起すること自体が困難である広瀬⁹⁾。特に、入学して半年も経たない中での予測は難しい。従来ならば、一般的な子どもの発達段階を理解しておき、事前に該当クラスの担任と十分打ち合わせをすると、若干、問題点が解決するのではないかと思う。11 月に使用しなかった理由は、子どもの発達段階・季節に合わない、別の教材にチャレンジなど半年間の学生の成長も伺えた。24 年度の「主活動」を決めた理由として、先輩に教えてもらったが 3%あり、本学の縦割り授業の効果であろう。11 月の附属園での単元保育指導案作成において担任からの訂正は、以前、多い学生では 4 回から 5 回の訂正を受ける者もいたが、平均 1 回から 2 回程度（学生への聞き取りにて）であった。この授業は役に立ったかでは、殆どの学生が役に立ったとし、今後の実習でも役立つと回答している。

6. まとめ

高瀬、水上、高橋、酒井¹⁰⁾らは、「指導案作成にあたっては、いかに設定した指導目標を達成するかといった観点から、学生が作成した指導案に改善する余地があることを繰り返し提示していくことが肝要」と述べている。

附属幼稚園の 11 月単元保育実習においても、各担任の指導案（学生作成）の訂正の仕方もそれぞれ違っている。指導案については園により基準が異なり、またその園内でも各教員の価値判断が異なるので、おのずと指導案の訂正の仕方、アドバイスの仕方が違うのだと言える。

開⁵⁾は、開仁志著「保育指導案大百科事典」「これで安心！保育指導案の書き方」の表紙に、「実習の最難関、保育指導案！そのコツは「習うより慣れる！」だった」と書いている。また、神永、山路、多田¹¹⁾らは、「日案を学生に転記させ、書き写すという演習は、指導案の創造的な作業と相反するようにも思えたが、意外に興味を持って取組、限られた時間で日案の大切な留意点を効果的に学ぶことができることが分かった」と述べている。

開⁵⁾は、指導案作成の流れとして、1、指導原案（指導原案は、担任との打ち合わせで保育を共通理解するためにある）、2、指導細案（指導細案は、自分が保育をする上での覚書。カンニングペーパー）、3、指導案（人に見せることが目的になるので、指導細案の中から、内容を厳選して書いていく。指導案は人に見せるもの。自分の保育に対する思いを他者に伝える。）としているが、筆者はこれに加えて、3の指導案の略式型（指導案が A 4 サイズならば、その半分サイズ）を「4」として加えたい。実際に単元保育実施時に見るもので、「環境構成」、「幼児の活動」、「保育者の配慮」項目にポイントのみ記入したものである。単元保育実施中には、詳細な指導案を見る時間さえない。手順などが分かれば十分であ

る。なぜなら、指導案を完成させるまでには何回も訂正や書き直しをしているので、記憶に入っているからである。筆者の経験でもそうであった。また学生も、附属園の11月単元保育実習・学外保育園・学外幼稚園・学外施設実習へと回を重ねるごとに慣れていき、指導案の作成能力も向上している。これは子どもとの関わり体験が増えること、指導案作成回数が増えることに関連しているといえる。

「指導案作成」の能力を高めるためには、指導案作成についての基本を学んで、指導案の転記や、多学生の指導案作成の発表を聞くこと、先輩の指導案を見る、また、現場保育者の訂正を受けたりすることなど、総合的な方法に効果があることが分かった。指導案作成については、まず、「慣れること」が重要であると思われる。

付記

本研究は、「日本乳幼児教育学会第22回大会」平成24年12月8日(土)、12月9日(日)で発表したものである。

参考文献

- 1) 木戸啓子：指導案作成に関する実習生の学び—実習担当保育士から受けた指導内容—，倉敷市立短期大学研究紀要，53，p1～p6（2010）
- 2) 塚本美知子、徳永静江、大熊光穂、村田カズ：幼稚園実習に関する学生の意識調査Ⅰ，聖徳大学短期大学部，日本保育学会第62回大会発表論文集，p276～p277（2009）
- 3) 高野むつ、三浦累美、藤川央子：短期の指導計画作成についての研究(3)—日案作成について—，松山東雲短期大学紀要第30号，p83～p92（2003）
- 4) 齊藤多江子：「保育過程論総論」の授業のあり方について考える—週案作成の試みから—，聖セシリア女子短期大学，日本保育学会第60回大会論文集，p834～p835（2007）
- 5) 開仁志編著：「保育指導案大百科事典」，2012，一藝社，開仁志編著：「これで安心！保育指導案の書き方」，北大路書房（2012）
- 6) 山田秀江：保育実習Ⅱにおける責任実習に関する事前指導について(2)—責任実習の実際から見た事前指導の在り方—，四條畷学園短期大学紀要41号，p47～p58（2008）
- 7) 大滝まり子：幼稚園実習における指導案作成の留意点，北海道文教大学研究紀要第32号，p49～p55（2008）
- 8) ①石川清明：教育実習における指導計画案の立案指導について(3)—養成校における指導上の問題—，國學院大學幼児教育専門学校，日本保育学会第60回大会論文集，p832～p833（2007）
②石川清明：教育実習における指導計画案の立案指導について(4)—幼稚園における指導—，國學院大學幼児教育専門学校，日本保育学会第61回大会論文集，p231（2008）
- 9) 広瀬健一郎：大学における保育短期指導計画作成の教授法—活動提案型指導案の立案指導—，文化女子大学室蘭短期大学研究紀要，第29号，p23～p45（2006）
- 10) 高瀬淳、水上香苗、高橋さおり、酒井研作：教育実習事前指導における指導案作成指導の内容・方法，藤女子大学，北海道大学大学院，広島大学，藤女子大学QOL研究所紀要2(1)，p33～p39（2007）
- 11) ①神永直美、山路純子、多田慧子：指導計画作成を学生に同伝えるか(2)，茨木女子短期大学，常盤短期大学，リリー保育福祉専門学校，日本保育学会第61回大会論文集，p601（2008）
②神永直美、山路純子、多田慧子：指導計画作成を学生に同伝えるか(3)，茨木女子短期大学，常盤短期大学，リリー保育福祉専門学校，日本保育学会第61回大会論文集，p382～p383（2009）
- 12) 林富公子：幼児期の教育課程と指導計画に関する研究の動向—日本保育学会における口頭発表（1985～2009）を中心に—，園田学園女子大学論文集第45号，p259～p267（2011）
- 13) 水野則子、佐東治、大友律子、小関堅：学生の指導案作成過程の分析—教育実習における部分案—，山形女子短期大学紀要第33集，p1～p27（2001）
- 14) 大西美智子：「幼児教育課程」における指導計画作成についての一考察—実習生が作成する日案に焦点を当てて—，札幌大谷短期大学紀要，p1～p22（2007）

指 導 案

月 日 () 歳児 組 男 名 女 名 計 名 保育者名			
主 活 動			
子どもの姿			
ね ら い			
時 間	環 境 の 構 成	子 ど も の 活 動	保 育 士 の 援 助
反 省			
評 価			

「保育課程論」での指導案作成についてのアンケート

下記の質問に、該当するものには○で囲を、また、理由等については記述ください。

1、「保育課程論」の授業で、指導案作成と発表をしました。その時の「主な活動」は何でしたか？
主な活動（ ）

2、指導案内容は5領域に分類すると、何に該当しますか？（複数回答可）
環境 人間関係 表現（リズム表現又は製作関係） 言葉 健康

3、①指導案作成において、下記項目の中で特に時間を要したものを○で囲んでください。
環境構成 幼児の活動 保育者の援助と配慮
②その理由を記入ください。
（ ）

4、①指導案作成において、下記項目の中で難しかったものを○で囲んでください。
「導入」の部分 「展開」の部分 「まとめ」の部分
②その理由を記入ください。
（ ）

5、①この指導案を、三光幼稚園の11月実習単元保育で使用しましたか？
「はい」 「いいえ」
②「はい」と解答の方、現場の先生に訂正を受けましたか？
「はい」 「いいえ」
③「はい」と解答した方、どのような訂正を受けましたか？
（ ）
（ ）
④11月の三光幼稚園実習単元保育で指導案を使用しなかった方、理由をお聞かせください。
（ ）

6、①前期に「保育課程論」の授業で指導案作成を学びましたが、役に立ちましたか？
「はい」 「どちらとも言えない」 「いいえ」
②「はい」の方、その理由をお聞かせください。
（ ）
③「いいえ」の方、今後どのようにすればよいと思われますか？お聞かせください。
（ ）

ご協力ありがとうございました。

指導案作成上の留意点に関する理解度調査

下記の質問に、該当するものには○で囲み、また、理由等については記述ください。

問1 指導案の「主活動」(テーマ)は何でしたか？

()

問2 ①「主活動」を上記に決めた理由を下記より選んでください。

自分の得意分野 保育雑誌を参考 先輩に教えてもらった
先輩の指導案を参考にした その他

②その他に○をつけた方は記述ください。

()

問3 発表時に、文章表現で訂正を受けた項目箇所を○で囲みなさい。(複数回答可)

主活動 ねらい 時間配分 環境の構成 子どもの活動 保育者の援助

問4 それはどの部分でしたか？項目を○で囲みなさい。また、それは何箇所でしたか？

導 入部分→主活動・ねらい・時間・環境構成・子どもの活動・保育者の援助 (箇所)

展 開部分→主活動・ねらい・時間・環境構成・子どもの活動・保育者の援助 (箇所)

まとめ部分→主活動・ねらい・時間・環境構成・子どもの活動・保育者の援助 (箇所)

問5 指導を受けた文章表現を具体的に書いてください。

(例) 子どもにわかりやすく話す →「何を話すのか」具体的に書くように指示された

	→
	→
	→
	→
	→
	→

問6 指導案作成するにあたり、どのような指導が勉強になったと思いますか？(自由記述)

・
・
・

問7 指導案作りで「工夫した点」について記述してください。(自由記述)

・
・

問8 指導案作りで「苦労した点」について記述してください。(自由記述)

・
・

問9 今後の実習(付属三光幼稚園・学外保育所・学外幼稚園)で役に立つと考えられますか？ 該当するものを○で囲みなさい。

はい どちらともいえない いいえ